



# 読書山梨

Yamanashi Prefectural Library



## ピックアップ県立図書館 ～書庫閲覧～

県立図書館の地下には、皆さんが普段目にする何倍もの本や雑誌などが収蔵されている書庫があります。書庫は高さが約3メートルの本棚がずらりと並び、その広さは慣れない人は迷子になるほどです。

普段は職員しか入れないのですが、週に一回、木曜日の午後1時から5時は利用者も入っていただけます。書庫以外の場所で読むことも、借りることもできます。特に何かを調べるわけでもなく、どうぞお入りください。自由に書棚の間を歩くと興味を引かれる一冊と出会えるかもしれません。1階のサービスカウンターが受付です。その際、利用カードが必要になりますのでお忘れなく。



## 山梨県図書館大会

11月27日に、忍野村生涯学習センターにおいて「富士からつなぐ 人・時・図書館」をテーマに、「第29回山梨県図書館大会」が開催されました。基調講演では、「富士山の知と地域—コモンズの視点」と題して、総合地球環境学研究所名誉教授の秋道智彌氏にご講演をいただきました。また、第一分科会では、「ソーシャルメディア時代の強い図書館のつくりかた」と題して、文筆家でもあり、ハフィントンポスト日本版記者の猪谷千香氏から図書館の情報発信やライブラリアンのすべきこと等のお話を聞きました。第二分科会では、「電子図書館・電子書籍貸出サービスQ&A」と題して、大日本印刷株式会社の花田一郎氏から電子書籍を取り扱う意義や先進事例等のお話をいただきました。



## 阿刀田 高館長よりご挨拶

# 本のある思い出

中学3年生のころ、父の周辺にある本に眼をとめたことがあった。父の部屋の小机の上、鞆のそば、枕元、見るたびにちがった本が1～2冊置いてある。好奇心の発露だったろう。

初めは厚い辞書だった。これはいつも小机の上に立ててある。「ロザリオ」という言葉を引いて、

— あ、これでわからないことが、みんなわかるんだ —  
と納得した。

吉川英治の『宮本武蔵』を見た。伊藤整の『火の鳥』も見た。仙花紙というのだろうか、薄い、灰色の紙に印刷された粗雑な本が多く、それが当時の新刊本だった。父は鉄工所の経営者だったが、本をよく読んでいた。ことさらによく記憶に残っているのは、谷崎潤一郎の『春琴抄』と『蘆刈』の二作品を収めた一冊があり、表紙の裏に父の字で、「春琴は名作なれど奇にして蘆刈趣き深し」と書いてあった。後年、二作を実際に読んで父の感想に同意することができた。

親の周辺に本があるのは、わるくない。すばらしい。子どもは知らず知らず興味を覚え、読書に心を向ける。その可能性が高い。少なくとも私はそうだった。昨今はフランスあたりで『春琴抄』の評価が高いらしい。『蘆刈』は趣きは深い、春琴のほうが凄味がある。父を懐しみながらも、ちょっと評価が変わった。



## Information

### イベント案内

- 「こどもにすすめたい本2016」展示 4月23日(土)～5月13日(金)
- 「おんがくかいぶらりVI」デキシールランドジャズ 4月24日(日)
- 「シネマかいぶらり」上映会 5月22日(日)

### 編集後記

街では新しい制服やスーツを着た方々を見かけるようになりました。三月は別れ、四月は新しい生活の始まり、新しい出会いの季節です。

ノーベル医学・生理学賞を受賞した山梨県韮崎市出身の大村智さんは地元の学校を卒業した経歴を持っています。県立図書館には、大村智さん関連書を始め多分野の書籍を所蔵していますので、いろんな本に出会っていただくと幸いです。

皆様のご利用をお待ちしています。 (企画振興担当 高橋恵美子)



山梨県立図書館報

読書山梨139号

発行日 平成28年4月1日

発行：山梨県立図書館（かいぶらり）

〒400-0024 甲府市北口2丁目8番1号

TEL:055-255-1040(代表) 055-255-1041(施設予約) FAX:055-255-1042

URL: <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

E-mail: [ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp](mailto:ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp)

## 事業報告

### 朗読会

## 新春合同朗読会 [1月17日]

1月17日に第1回の「新春合同朗読会」を開催しました。山梨県芸術文化協会朗読部門のご協力をいただき、朗読・表現さざなみの会、溝口朗読サークル、朗読サークルつばさ、朗読サークル野の花会、萌木の会の5グループの出演で、芥川龍之介の『羅生門』、山本周五郎の『蜜柑畑』などの朗読の発表をしていただきました。参加者を交えた交流会も行われ、充実した朗読会となりました。今後も引き続き開催していく予定です。



入館  
300万人

## 入館者300万人達成！ [2月11日]

平成28年2月11日午後1時58分、平成24年11月11日の開館以来1188日目に入館者が300万人に達しました。記念セレモニーは午後2時から開催され、300万人目入館者となった甲府市在住の川西さん親子に、花束、阿刀田館長のサイン色紙、記念品などを贈呈しました。当館は、平成25年5月25日に50万人、同年11月20日に100万人、平成27年1月10日に200万人をそれぞれ達成しており、開館以来、多くの皆様にご利用いただいています。改めて深く感謝申し上げます。今後も図書館サービスの一層の充実を図り、暮らしや仕事、学習を支える知的文化の拠点として、山梨県民図書館の構築に努めて参りたいと考えています。



読み  
聞かせ

## 外国語による絵本の読み聞かせ

山梨県立図書館協会との共催で、「外国語による絵本の読み聞かせ」を年に4～5回開催しています。外国語読み聞かせ分野に所属している協力員の方が企画と当日の運営を行っており、小さな子どものうちから楽しく外国語に触れることができるおはなし会として好評をいただいています。これまでは、英語やフランス語、中国語などによる絵本の読み聞かせや、手遊び歌を行ってきました。毎回、主に3歳から小学生くらいまでの子どもたちと、そのご家族の方を中心にご参加いただいています。「外国語による絵本の読み聞かせ」は、今後も開催予定です。たくさんの方のご参加をお待ちしています。



シネマ  
名作  
ナイト

## シネマかいぶらり名作ナイト

県立図書館では、昨年度から「夜の時間帯に大人向けの名作映画を」とのコンセプトで、「シネマかいぶらり名作ナイト」という上映会を午後6時半から開催しています。今年度はイタリア映画の名作『自転車泥棒』、懐かしの特撮怪獣もの『ウルトラQ』、現代の名作『父と暮せば』、映画史上に残る傑作『第三の男』を上映しました。これからも定期的に開催しますので、仕事の後にぜひ立ち寄っていただき、名作映画を楽しんでもらいたいと思います。



資料展示  
報告

## 資料展示報告

- 1 「色・色彩・光」 【2015年11月18日～2016年1月31日】
- 2 「甲府藩主柳沢吉保」 【2015年12月4日～2016年1月31日】
- 3 「寒い冬でもぼかぼかあったか」 【2015年12月16日～2016年2月28日】
- 4 「Masaaki Sato in NEW YORK」 【2月3日～2月14日】
- 5 「自然災害に備える」 【2月3日～3月21日】
- 6 「がんばれヴァンフォーレ甲府」 【2月19日～3月13日】



## やまなし読書人

齊藤 順子さん (NPO 法人山梨子ども図書館理事長)

NPO法人山梨子ども図書館は、「読書を通して子どもたちによりよい未来を」をモットーに、子どもと本をつなぐ大人の養成を目的に活動しています。

読書は私たちに様々な示唆を与え、豊かな人生を送る支えとなります。ことに、多感な思春期、人生の大海原に乗り出してゆく子どもたちにとって、良質な児童文学の登場人物は生き方の手本となり、様々な人生をかいま見せてくれます。困難にぶつかったとき、物語の中で間接的な体験を積んでいることは、しなやかに強く生きていくための大きな支えとなることでしょう。

子どもたちが年令にあった良質な物語と出会うためには、子どもの本について十分な知識を持ち、子どもに本を手渡す技術を持った大人が子どものそばにいることが重要です。山梨子ども図書館は、適切に子どもに本を手渡せる大人を養成し、ひとりでも多くの子どもたちが心躍らせ、生きる糧となる良い本と出会うことを願っています。昨年10周年を迎え、地道な活動ではありますが、今後とも、ゆっくりでも確かな歩みを続けていく所存です。多くの県民の皆様のご協力をお願いいたします。